

平成30年度

第45回 横浜市教育研究大会 第2次教育研究大会
生活科・総合的な学習の時間研究会

研究主題

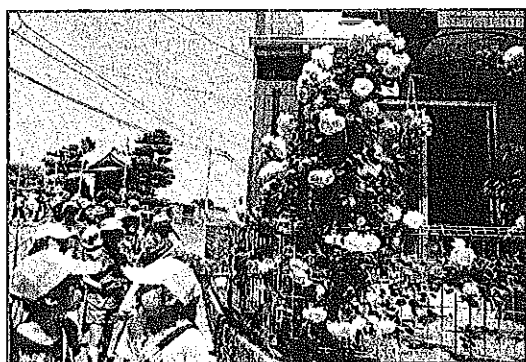
学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間
～「生きて働く知識」を明らかにしながら～

たねだんごでみどりいっぱいのみなとみらいのまちをつくらう！



発表者 横浜市立みなとみらい本町小学校 教 諭 一色 恵
助言者 教職員人事部教職員育成課 主任指導主事 遠藤 淳子

3年1組 白バラ研究所



発表者 横浜市立折本小学校 教 諭 白須沙也香
助言者 北部学校教育事務所 主任指導主事 芦垣 幸代



たねだんごで みどりいっぱいのみなとみらいのまちをつくろう！

2年1組 指導者 一色 恵

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

- ・1年生では本町小に通っていたみなとみらい地区の子どもが、2年生になり、新しくみなとみらい本町小学校へ編入した。お別れの記念として秋に蒔いた、たねだんごの花が春に満開となり、離れ離れになった友達とも「お花でつながっている」という実感をもって、新しい学年をスタートしている。
- ・「まちたんけん」ではまず学校周辺の小さな公園をいくつか探検した。オフィスビルが多い地区のため、あまり子どもにはなじみがなく、新鮮な驚きや感動をもって、植物や虫と触れ合ったり、シーバスや貨物列車を眺めたりする様子が見られた。次に「まちのお気に入り」を尋ねると、子どもたちが住むマンション街の中央にある高島中央公園をあげる子が多く見られた。他にはランドマークタワー、ワールドポーターズなどの巨大商業施設をあげる子どもが多く、生活感のある場所にあまり目が向いていない傾向が見られた。高島中央公園を中心に、このまちをつくろうとしている人たちと関わることを通じて、子どもに、自分が生活する場所への意識や、自らまちに関わっていく意欲をもたせたい。

身に付けさせたい力と材について

- ・みなとみらい地区にタワーマンションができて人々の暮らしの場となってから、10年が経過した。周辺の商業施設やオフィスビルは入れ替わりが激しく、街としての方向性は感じられない。保護者や子どもにとって、自分たちがずっと暮らしていきたい街という感覚は乏しく、新しくおしゃれで便利な街として捉えられている。
- ・しかし実際には、子どもが遊べる大きな公園があって愛護会が花壇の花を植えていたり、近隣にたくさんの保育園があって育児を支援していたり、夏に地域のお祭りが運営されるようになっていたりして、着々とまちづくりが進められている。子どもには、自分たちが安心してのびのびと暮らせるまちづくりを行っている人がいることを知って、さらにこのまちに愛着をもって生活する気持ちもてるようになることを期待している。
- ・「たねだんご」は、失敗が少なく、簡単にたくさんの花を咲かせることができる栽培方法である。たねだんご作りやガーデンネックレスなどのイベントを通じて横浜市緑化に取り組んでいる、中区区役所みどりアップ推進課の方々と繰り返し関わることで、まちづくりや公園の緑化への思いに触れることができると考えた。また、自分たちの栽培したたねだんごのプランターをどこに置くのかを、「まちたんけん」を通じて考えることで、さらに地域の場所や人の魅力に気づき、まちに愛着をもつことを期待したい。

内容(3) 地域と生活

内容(8) 生活や出来事の伝え合い

単元目標

まちに緑を増やそうとしている人たちの思いや活動を知り、一緒にまちに緑を増やす活動を行うことを通して、自分たちの暮らすまちの公園や通りに愛着をもって生活しようとする。

単元の評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気づき
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りの場所や自然に関心をもって関わろうとしている。 ・自分が気付いた物や事について楽しく伝えあい交流しようとしている。 ・自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験や友達の話、まちづくりに取り組んでいる人たちの話を聞いて、自分たちのまちについて考えている。 ・自分たちのまちにいる人や場所と適切に関わることや、楽しく生活することについて考え、それを表現している。 ・公園に関わる人のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのまちにある自然の豊かさに気付いている。 ・自分たちのまちに緑を増やそうとしている人たちの存在や思いに気付いている。 ・自分たちの生活は様々な人と関わりを持っていることが分かり、まちのよさに気付いている。

2 指導計画（25時間＋常時活動）

活動のきっかけ『春になって、たねだんこの花がたくさん咲いたよ。』

- 学校の周りで春探しをする。
 - ・学校の周りにもたくさん花が咲いているよ。
 - ・すぐ近くに水際線公園があるよ。
 - ・そっちの方は行ったことがないな。
 - ・川にクラゲがいるときもあるよ。
 - ・何があるのか見に行きたい。

他教科等との関連

【生活】
みつけたよ！
はるいっぱい

1 公園たんけんに出かけよう

6時間＋常時活動

- 水際線公園に出かける。
 - ・タンポポが満開だよ。
 - ・線路が見える。何の電車が通るのかな。
 - ・シーバスだ！乗ったことがあるよ。
 - ・見たことのないお花があるよ。
 - ・僕の通ったP保育園の子たちが来てる！
 - ・川の向こうにも公園ぽい場所があるね。
- ポートサイド公園に出かける。
 - ・坂道がいっぱい面白い！
 - ・ここからも貨物列車とシーバスが見える！おーい！
 - ・保育園の子がいる。どこの保育園かな。
 - ・紫色のねこじゃらし、とっても大きい！
- 臨港パークに出かける。
 - ・クラゲがたくさんいる！
 - ・貝殻やワカメもあるよ。
 - ・休みの日に家族と来たことがある。人がいっぱいいた。
 - ・不思議な石像「リマちゃん」と握手したよ。

【道徳】
ぼくは2年生

【国語】
たんぽぽのちえ

2 大好きな高島中央公園に行こう

4時間＋常時活動

- 高島中央公園に出かける。
 - ・バッタを捕まえた。
 - ・ダンゴムシがいっぱいいるよ。飼ってみたいな。
 - ・さくらんぼの実が落ちてる。
 - ・花壇に花があるよ。誰が植えてるのかな。
 - ・いつもこの辺でボール遊びをするんだ。
 - ・今日は人が少ないな。でも小さい子が遊んでる。
- なぜ高島中央公園には2つの場所があるのか話し合う。
 - ・草の場所とコンクリート（化粧石）の場所がある。
 - ・コンクリートの場所でボール遊びをするのが楽しい。
 - ・キックボードもコンクリートの方がやりやすいよ。
 - ・草は嫌い。虫が来るし足がチクチクする。
 - ・なんで両方あるんだろう。
- 高島中央公園を使っている人について話し合う。
 - ・小さい子が使うから草の場所も必要だよ。
 - ・遊具を置くのは草の方がいいんじゃない。
 - ・木の陰で休んでいるビジネスマンの人もあるよ。
 - ・両方あるといいんだね。
 - ・お弁当を家族で食べている人もいるよ。
 - ・カラスやハトが寄ってきて困ったことがある。
 - ・ゴミが落ちていた。マナーを守らない人がいるのが気になる。
 - ・そういえばゴミ箱がないのはなぜだろう。
 - ・看板を立てたらマナーを守る人が増えるかも。
 - ・勝手に看板を立てたら怒られないかな。

【生活】
生きもの 大すき
大きくせん

【国語】
かんさつ名人になる
う

【算数】
長さのたんい

3 みどりアップ推進課の人に聞いてみよう

4時間

○みどりアップ推進課のKさんにお話を聞く。

- ・1年生の時、どうして僕たちにたねだんごをくれたんですか。
- ・みどりアップ推進課って何をしているの。
- ・緑の大切さや、増やす大変さがわかった。
- ・ゴミ箱がない理由もわかった。
- ・僕たちもまちに緑を増やしたいな。
- ・またお花を育てたい！

○春夏のたねだんご作りを行う。

- ・今度はどんなお花が咲くかな。
- ・またプランターをまちに置きたい！
- ・今度はもっと、まちのいろいろな場所に置きたいな。
- ・まちに緑が増えたら、まちの人も加藤さんも喜ぶんじゃないかな。

【道徳】

このまち 大すき

【国語】

大事なことを落とさず
に話を聞こう

4 まちにみどりをふやそう

6時間

○加藤さんの出した条件に合う場所を探す。

- ・歩行者の邪魔にならない
- ・たくさんの人が見る
- ・日当たりがよい

- ・ここは人がいっぱい通るね。
- ・道のはじっこならいいかな。お店の人に聞いてみよう。
- ・公園に置いたら、保育園の子が見てくれるんじゃないかな。
- ・ランドマークタワーの方に置けば、本町小の子たちも見てくれるかも。
- ・加藤さんにも置けそうな場所を聞いてみよう。

○街の美化・緑化に取り組んでいる人たちに会おう。

- ・愛護会の方が公園の花壇のお世話をしていたんだね。
- ・まちにある会社の人たちも、まちに緑を増やそうとしていたなんて知らなかった。
- ・私たちもお手伝いが出来てうれしいな。

【生活】

ぐんぐんそだて

5 わたしたちのたねだんごをせんでんしよう

4時間+常時活動

○ポスターや看板を作って、宣伝の準備を行う。

- ・保育園の子や先生に見てもらいたい。
- ・本町小にも宣伝しよう。
- ・まちの人たちが喜んでくれるといいな。

○ポスターや看板を渡してまちの人と交流する。

- ・保育園の先生が喜んでくれたよ。
- ・お店の人や工事の人も喜んでくれた。
- ・緑が増えるとたくさんの人が笑顔になるんだね。

6 大すき わたしたちのまち

3時間

○まちたんけんでの出来事を振り返る。

- ・私たちのまちを作っている人と会えてうれしかった。
- ・たくさんの人が喜んでくれた。
- ・まちに緑を増やすことができた。
- ・高島中央公園がもっと好きになったよ。

- ・これからもまちに緑を増やしたい。
- ・たくさんの人に私たちの学校を知ってもらえた。
- ・もっとほかに私たちができることはないかな。
- ・まちの色々などところにもっと出かけたくな。

3 評価計画 内容(3) 地域と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い

観点		生活への 関心・意欲・態度	活動や体験について の思考・表現	身近な環境や 自分についての 気づき	他教科等と の関連
小単元 公園たんけんに出かけよう 6時間+常時活動	○水際線公園に出かける	関： 学校の周りの場所や自然に関心をもって関わろうとしている。 自分が気付いた物や事について楽しく伝えあい交流しようとしている。		気： 自分たちのまちにある自然の豊かさに気付いている。	【道徳】 ぼくは2年生 【国語】 たんぽぽのちえ
	○ポートサイド公園に出かける				
	○臨港パークに出かける				
高島中央公園に出かけよう 4時間+常時活動	○高島中央公園に出かける				【生活】 生きもの大すき 大きくせん
	○なぜ高島中央公園には2つの場所があるのか話し合う ○高島中央公園を使っている人について話し合う		思： 自分の体験や友達の話から、自分たちのまちについて考えている。		【国語】 かんさつ名人になろう 【算数】 長さのたんい
みどりアップ推進課の人に聞いてみよう 4時間	○みどりアップ推進課の加藤さんにお話をきく			気： 自分たちのまちに緑を増やそうとしている人たちの存在や思いに気付いている。	【道徳】 このまち大すき 【国語】 だいじなことをおとさずにきこう
	○春夏のたねだんご作りを行う	関： 自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。			

6時間 まちにみどりをかかせよう	○加藤さんの出した条件に合う場所を探す			気： 自分たちの生活は様々な人と関わりを持っていることが分かり、まちのよさに気付いている。	【生活】 ぐんぐんそだて
	○まちの美化・緑化に取り組んでいる人たちに会う		愚： まちづくりに取り組んでいる人たちの話を聞いて、自分たちのまちについて考えている。		
4時間+常時活動 わたしたちのたねだんごをせんでんしよう	○ポスターや看板を作って、宣伝の準備を行う		愚： 自分たちのまちにいる人や場所と適切に関わることや、楽しく生活することについて考え、それを表現している。		
	○ポスターや看板を渡して、まちの人と交流する	関： 自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。	愚： 公園に関わる人のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。		
3時間 大すき わたしたちのまち	○まちたんけんでの出来事を振り返る			気： 自分たちの生活は様々な人と関わりを持っていることが分かり、まちのよさに気付いている。	

4 活動の実際

学習活動	教師のかかわり	評価規準
<p>活動のきっかけ</p> <p>【日常】学校にあるたねだんごのプランターを見た子どもの発言から…</p> <p>・学校の周りにもたくさん花が咲いているよ。 ・近くに水際線公園があるよ。 ・そっちには行ったことがないな。</p> <p>学校の周りに何があるのか見に行こう。</p>	<p>新しい学校の周辺や自然に興味を持っているようだ。</p> <p>環境 たねだんごのプランターを子どもの目に付くところに設置する。</p> <p>共有化 「春だから色々な植物や生きものが見られるよ。」</p>	<p>関：学校の周りの場所や自然に関心をもって関わろうとしている。</p>
<p>1 公園たんけんに出かけよう（4月）</p> <p>○水際線公園に出かける。</p> <p>・タンポポが満開だよ。 ・線路が見える。何の電車が通るのかな。 ・シーバスだ！乗ったことがあるよ。 ・保育園の子たちが来ている。 ・川の向こうにも公園があるね。</p> <p>○ポートサイド公園に出かける。</p> <p>・坂道がいっぱいで面白い！ ・ここからも貨物列車やシーバスが見える！おーい！ ・保育園の子がいる。どこの保育園かな。 ・紫色のねこじゃらし、大きい！</p> <p>○臨港パークに出かける。</p> <p>・クラゲがたくさんいる！ ・貝殻やワカメもあるよ。 ・休みの日には人がいっぱいいるよ。 ・不思議な石像「リマちゃん」と握手したよ。</p> <p>いつもぼくたちが遊んでいる高島中央公園にも行きたいな。</p>	<p>身近にある公園から、自然の豊かさや季節の移り変わりに気付かせたいな。</p> <p>価値付け 自然や場所に対するささいな子どもの気付きを大いに褒め、写真を撮っておく。</p> <p>繰り返し公園たんけんを行うことで、自然や場所への気付きが深まってきたな。</p> <p>環境 自然と触れ合う時間を十分に取って、繰り返し自然と関わることができるようにする。 学年フロアにまちの絵地図を貼り、それぞれの公園の位置関係がわかるようにしておく。</p> <p>共有化 撮った写真を振り返りに利用して、友達が見つけたものを共有する。</p>	<p>関：自分が気付いた物や事について楽しく伝えあい交流しようとしている。</p> <p>関：自分たちのまちにある自然の豊かさに気付いている。</p>

2 大好きな高島中央公園に行こう (5月)

- ・バッタを捕まえた。
- ・ダンゴムシがいっぱいいるよ。飼ってみたいな。
- ・さくらんぼの実が落ちている。
- ・花壇に花があるよ。誰が植えているのかな。
- ・いつもはこの辺でボール遊びをするんだ。
- ・今日は人が少ないな。

○なぜ高島中央公園には2つの場所がある

- ・草の場所とコンクリートの場所がある。
- ・コンクリートの方がボール遊びやキックボードがやりやすいよ。
- ・草は嫌い。虫が来るし、チクチクする。
- ・なんで両方あるんだろう。

○高島中央公園を使っている人について話

- ・小さい子が使うから草の場所も必要だよ。
- ・両方あるといいんだね。
- ・マナーを守らない人がいるのが気になる。
- ・ゴミ箱がないのはなぜだろう。
- ・看板を立てたらどうかな。

公園を管理している人について、看板を作っているか聞きたいな。

普段遊んでいる公園を改めて観察することで、新たな発見に気付かせたいな。

価値付け

自然や場所に対するささいな子どもの気付きを大いに褒め、写真を撮っておく。

共済化

帰校してから写真を見せ、高島中央公園の特長に気付くようにする。

喜んで自然探しをしていたけど、子どもたちに馴染みが深いのはコンクリートの場所らしい。草地のよさにも気づかせたいな。

価値付け

様々な利用者に目を向けさせ、両方のよさがあることに気付くようにする。

公園を守っていく活動に目が向いてきたな。公園に関わる人に出会わせよう。

環境

たねだんごでお世話になった、みどりアップ推進課の方にお話を聞けるように、手配しておく。

3 みどりアップ推進課の人に聞いてみよう (6月)

○みどりアップ推進課のKさんにお話を聞く。

- ・みどりアップ推進課って何をしているの。
- ・緑の大切さや増やす大変さが分かった。
- ・ゴミ箱がない理由も分かった。
- ・僕たちもまちに緑を増やしたいな。
- ・またお花を育てたい。

○春夏のたねだんご作りを行う。

緑のよさに気付いた子どもたちに、何かできることはないかな。

価値付け

子どもの気持ちの高まりを見取り、緑を増やしたいという思いから、次の活動につなげていく。

【恩】：自分の体験や友達の話から、自分たちのまちについて考えている。

【気】：自分たちのまちに緑を増やそうとしている人たちの存在や思いに気付いている。

・今度はどんなお花が咲くかな。
 ・またプランターをまちに置きたい！
 ・今度は色々な場所に置きたいな。
 ・まちに緑が増えたら、まちの人やKさんが喜んでくれるんじゃないかな。

どこにプランターを置いたら、まちの人が喜んでくれるかな。

子どもたちが慣れているたねだんごの手法で、気軽に緑化に参加できそうだな。

価値付け
 昨年の活動を想起させ、栽培への意欲や自信を高めるようにする。

関：自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。

4 まちにみどりをふやそう (7~9月)

○Kさんの出した条件に合う場所を探す。

・ここは人がいっぱい通るね。
 ・ここは風が強すぎる。
 ・公園に置いたら、水やりが楽じゃないかな。
 ・どこにでも置いていいわけじゃないと分かった。
 ・保育園がOKしてくれて嬉しい。

○設置場所を決定し、まちの美化や緑化に取り組んでいる人たちに会う。

・愛護会の方が公園の花壇のお世話をしていたんだね。
 ・日本丸メモリアルパークの人たちが応援してくれて嬉しいな！
 ・臨港パークの花壇に花を植えませんかだって。僕たちの活動が広がっている！ **960ポット**

○自分たちの活動に名前を付ける。

しぜんいっぱいプロジェクトに決定！

○プランターのお世話計画を考える。

・近所の高島中央公園がいい。
 ・ぼくも高島中央公園がいい。
 ・野球に行くから日本丸でもいいよ。
 ・みんな好き勝手なことを言っていて、ちっとも決まらない…。

○愛護会のMさんから手紙をもらう。

・お友達になりたいって言われて嬉しい。
 ・もっといいことって何だろう？
 ・もう一度お世話計画を立て直そう。

プランターの場所探しを通じて、もっとたくさんの人に関わってほしいな。

環境
 候補に挙がりそうな場所をあらかじめ選定しておき、その場所の人に話を通しておくと共に、子どもたちが条件を通して、その場所に目を向けられるようにしておく。

関：自分たちの生活は様々な人と関わりをもっていることが分かり、まちのよさに気付いている。

Kさんの他にも、まちの美化や緑化に取り組んでいる人がいることに気付いてほしい。

価値付け
 子どもたちの活動がまちの大人に喜ばれる価値のあるものであることに気付かせ、自信をもって活動を進めたいという意識につなげる。

関：まちづくりに取り組んでいる人たちの話を聞いて、自分たちのまちについて考えている。

大人任せではなく自分事として取り組むように、責任感や苦勞を経験してもらいたい。

環境
 世話活動がネックになることを予め想定し、愛護会の松本さんに子どもたちを励ましながら、活動を促すような手紙を作成してもらおう。

関：自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。

学習活動

教師のかかわり

評価規準

○プランターの世話当番や設置期間が決定する。

まちの人たちに、私たちの活動を知ってもらいたいな。

5 プランターを設置して、まちの人に私たちの活動を伝えよう (10月)

○看板やポップ、チラシなどを作って、まちの人に活動を伝える準備を行う。

- ・まちの通りや施設を利用する人に気付いてもらいたい。
- ・「みなとみらい秋祭り」でもチラシを配りたい。

○プランターを各地に手で運び、施設の人と関わるとともに、各公園で思い切り遊んで、公園への愛着と世話活動への意欲を高める。

- ・すごくいいのができた。かわいい。自信がある。すごく説明したい。
- ・プランター運びは大変だけど、公園で遊べるのが楽しみ。
- ・家の人やマンションの人協力してくれて、嬉しかった。
- ・保育園の先生も日本丸のNさんも愛護会のMさんも喜んでくれた。
- ・新聞やタウンニュースに載るくらいすごいことができたとかわかった。
- ・学校のみんなにも宣伝したい。

まちの人と関わって楽しかったなあ。やってよかったなあ。

6 活動の報告会をしよう (11月)

○「しぜんいっぱいプロジェクト」の出来事を振り返るために、劇を作り、Kさんや保護者の方に見てもらおう。

- ・Kさんに報告が出来て、嬉しい。
- ・大変だったことを色々思い出した。
- ・まちのたくさんの人が、私たちの活動や花を見てくれて嬉しかった。
- ・まちに自然を増やすことができた。
- ・まちの色々な場所がもっと好きになった。
- ・大人の人がたくさん関わってくれて嬉しかった。

次はどんな学習をするのか、楽しみだな。

みんなの思いが一つになるような看板やポップ、チラシがいいな。

美術化

それぞれの設置場所に応じた、レイアウトや設置方法、この活動を通じたみんなの思いが表せるようにし、共有化する。まちの各所を絵地図にし、活動全体を見渡せるようにする。

これからも意欲的にまちの人や場所と関わってほしいな。

環境

一緒にたねだんご作りをした2組にもポップ作りや世話をお願いする。プランター運びを保護者の方に手伝ってもらおう。運んだら、施設の人と関わり、思い切り遊ぶパターンを作る。

価値保持

子どもたちの活動が、たくさんの人に応援され、評価されたことを通じて、自己有用感や、またやりたいという意欲を高められるようにする。

しぜんいっぱいプロジェクトから達成感を得て、来年の総合的な学習への足掛かりにしてほしい。

環境

これまでの活動や問題解決方法を可視化できるように、写真や解決ツールなどを掲示しておく。劇作りを楽しめるように、小道具や台本などを子ども主体で作る。

美術化

時系列で劇化し、自分の印象に残った場面を選んで演じる。他グループの発表を見て、体験したことを全体で共有化する。

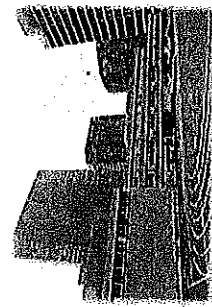
【思】：自分たちのまちにいる人や場所と適切に関わることや、楽しく生活することについて考え、それを表現している。

【関】：自分たちのまちづくりに関わっている人々や様々な場所に親しみや愛着をもって進んで関わろうとしている。

【思】：公園に関わる人のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりする。

【関】：自分たちの生活は様々な人と関わりをもっていることが分かり、まちのよさに気付いている。

たねだんごで みどりいっぱい
みなとみらいのまちをつくらう！



平成31年2月13日 第二次教育研究会
市生活科・総合的な学習の時間研究会

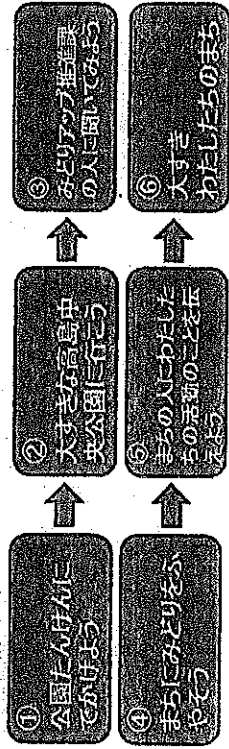
みなとみらい本町小学校 一色 恵

1 材について

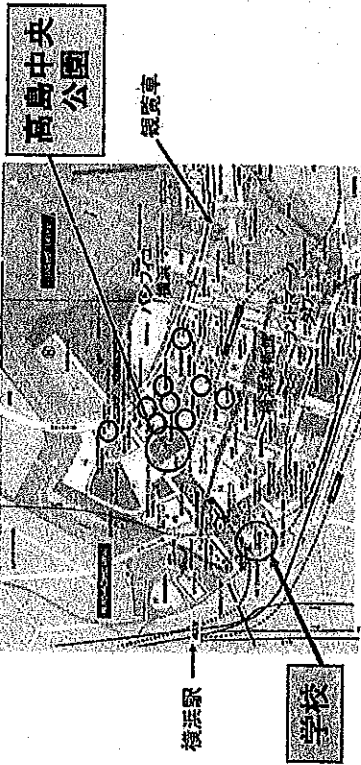
- ▶みなとみらいのまち
オフィスビル、ランドマークタワーやパシフィコなどの大型商業施設が中心
マンションができ、人が住み始めて10年が経過
公園はあるが、緑の少ないまち
- ▶子どもの実態
今年4月、新設されたみなとみらい本町小学校に編入
1年生時、本町小の子どもたちとたねだんごの花を育てた経験がある
自分たちが住むまちのことをあまりよく知らない
▶こんな子どもに育てたい
自分たちのまちに愛着をもってほしい
自らまちに関わっていく意欲をもたせたい

2 単元について

- ▶単元目標
まちに緑を増やそうとしている人たちの思いや活動を知り、一緒にまちに緑を増やそう活動を行うことを通して、自分たちの暮らすまちの公園や通りに愛着をもって生活しようとする。
- ▶単元構想



▶みなとみらい本町小学校周辺図 ○は児童の住むマンション



3 単元の実際と授業づくりについて

▶「なぜ高島中央公園には草の場所とコンクリートの場所があるのだろう」



草はチクチクしてきれい！
虫も鳥も気もわるい！
草の場所はいららない！！

これは困った。
なんとかしなければ！

▶みどりアップ推進課のKさんと出会う

このまちでは、緑は増やそうとしないと、
増えていかないんだよ。

そうなんだ！
緑の大切さが分かった！
ぼくたちもお手伝いが
したいな！

(教師の手立て)
茶の価値を、外部の人から教えてもらう

▶プランターの置き場所を考える

①日本丸 ②日当り ③人が見えない

美術館：
いいところ 人が見てくれる
わるいところ 水道がない

日本丸：
いいところ 日当たりがいい
わるいところ 場所が悪い

置き場所が決定

①日本丸 ②高島中央公園 ③P保育園 ④新高島駅前通路 ⑤本町小

(教師の手立て)

高島中央公園愛護会のMさんなど、まちの人と場所を指ひ付ける

▶お世話計画を立てる

決まらないよ...
大変...ムリ...
できるかどうか
約束できない...

僕は高中がいい！

おれだって高中がいい！！




▶Mさんからの手紙

ぼくもみんなのお友だちになりたい
みどりをふやすと
もっといいことがある
これからおせわを
がんばるみんなを
おうえんしています

(教師の手立て) 変団会のMさんに応援してもらおう

お友だちになりたい
だって...
うれしいな
もっといいことって
何だろう?



▶まちの各所にプランターを選び、しぜんいっぱいプロジェクトの活動を伝える

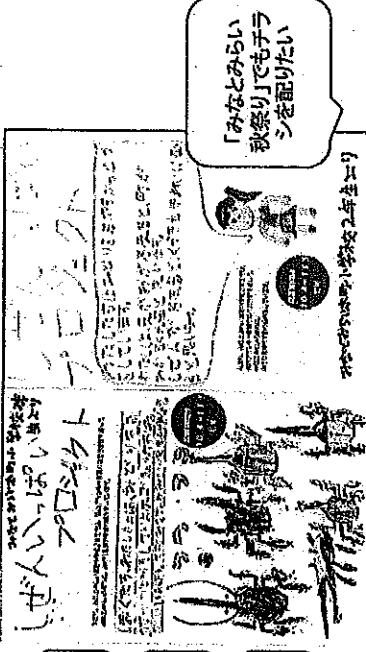
いいのが
できた

自信がある

すごく説明
したい

「みなとみらい
秋祭り」でもチラ
シを配りたい

しぜんいっぱい
プロジェクト



みなとみらい秋祭り 2年生より


▶まちの各所にプランターを選び、しぜんいっぱいプロジェクトの活動を伝える

公園がもっと好きになったよ!

通りかかった人が見てくれて
嬉しい!

おうちの人が協力してくれて
嬉しい!

(教師の手立て) 自分事として伝えるために、世話や致意を自分たちで行う。



▶その他の活動

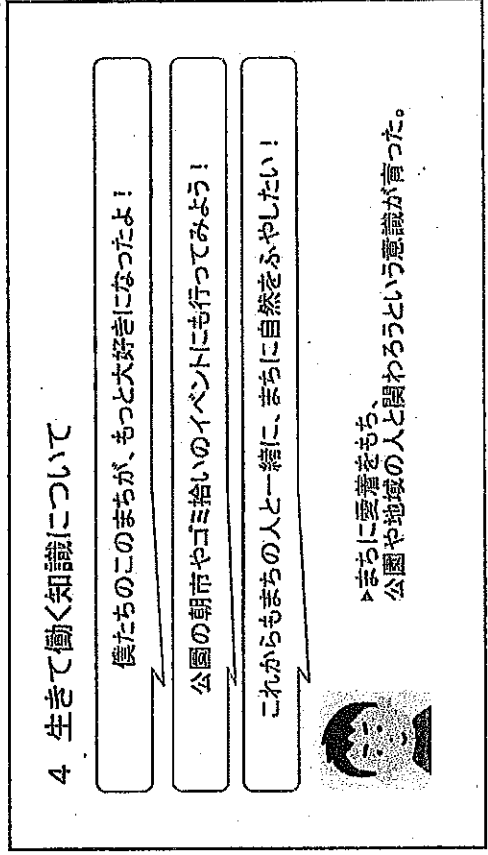
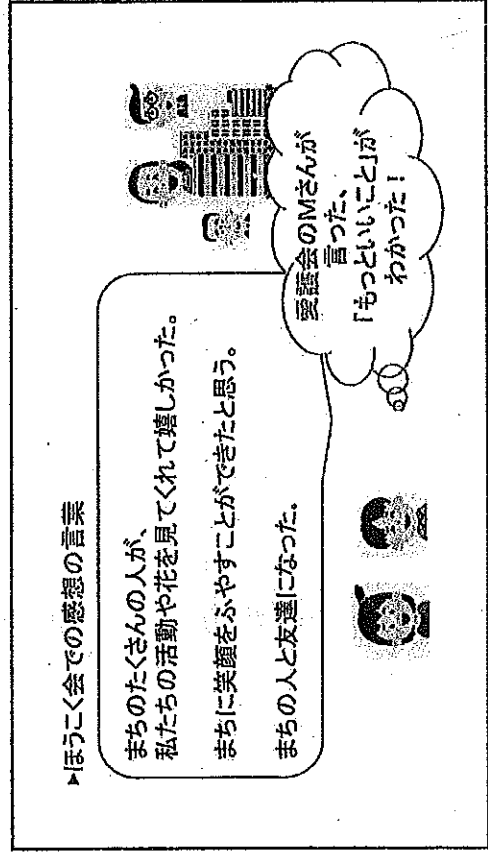
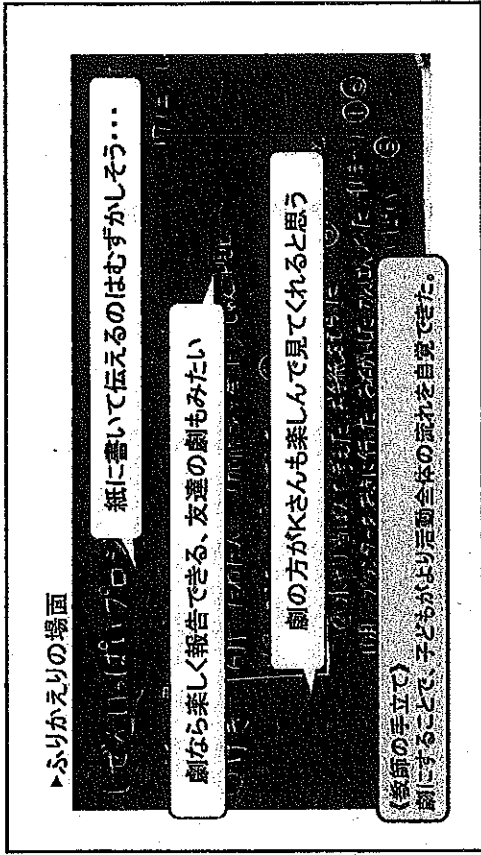
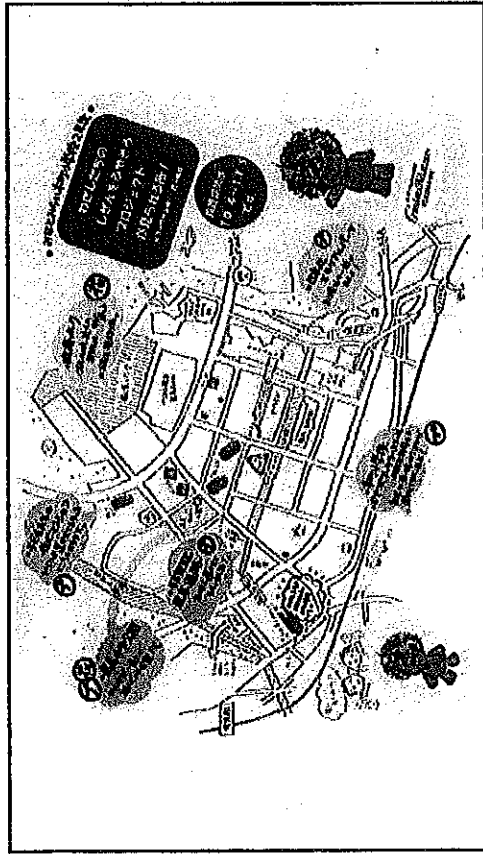
- ・みなとみらい秋祭りで、チューリップの植栽とチラン配り
- ・臨港パークで960ポットの花の植栽
- ・子どもたちの住む各マンションにプランター設置

他の学年の人にも
知らせたいな

大変だったけど、新聞に
載るくらい
すごいことができたんだ

ME
ME
を花
いっ
ぱい
に





▶「いもがどさりできたよパーティー」にMさんを招待。

感謝の気持ちを伝えた。

Mさんのおかげで、
ほくはもっとういことが分かりました。
それはまちの人の笑顔を増やすことです。

私もMさんみたいにしぜんを増やしたいです。

これからもよろしくお願ひしま〜す。



3-1 白バラ研究所

折本小学校 3 年 1 組担任 白須 沙也香

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

生活科のまちたんけんでは、自分たちが生活する折本の町を歩き、様々な場所や人と接していく中で、それらが自分の生活と関わっていることに気づき、地域に親しみをもつことができた。

自ら課題を見つけ、それらを追究するための方法を考え、積極的に提案することはできるが、調べて分かったことをまとめたり、そこから考えたことを自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもっている。

来年度、折本小学校が 70 周年を迎えるということに対して、その当時の折本のことを知りたいという思いや、自分たちの活動を学校や地域の人たちに広め、その活動が 70 周年のお祝いにつながればよいという思いをもっている。

身に付けさせたい力と材について

子どもたちがバラを育てる活動を進めていく中で、地域の方々や専門的な知識や経験をもった人の協力が必要になってくると考える。繰り返し取材を行うことで、折本のまちがもつ歴史について知識を深めたり、植物を育てる人たちの様々な取り組みを知って、行っている方の思いを感じとったりすることができると考えている。

また、はまみらいや野いばらを実際に育てていく際には、野外での栽培活動を通して、季節ごとの虫や土の種類など、栽培している品種以外にも自然から多くのことを学ぶことができると考えている。

70 周年を迎えるにあたって、自分たちの活動を学校全体や地域に広めることで、自分たちがこの折本のまちの一員であることを自覚するとともに、自分以外の人のため、未来のために活動することの喜びを感じることができるようになりたい。

単元目標

「折本小の校章のことを学校や地域の人に知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、校内でバラを育てる活動を通して、自分たちの地域を支えてくださっている方々の思いを知るとともに、地域の一員として、70 年前に折本に咲いていた野いばらを再びまちに広め、当時の風景を取り戻し、まちをより豊かにするための方法を考え、行動しようとする。

本単元における探究課題と育てたい資質・能力

資質・能力 探究課題	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
地域における自然や植物の成長の特徴や魅力と、まちに住む方々の地域を大切にしたいという思いや取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域には、自然、動植物の成長、資源などがあり、それぞれに特徴や魅力があること。 自然と人間が共存しているためには、環境のために自分ができることを知り、日ごろから心がけて生活することが必要であると分かる。 地域には、様々な魅力や特徴があり、それを捉えることに価値があり、地域活性化にもつながることが分かる。 まちづくりや地域活性化のために取り組んでいる人たちには、思いや願いがあり、それを何らかの形で実現しようとして行動していることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> まちの観察やまちの方々へのインタビューから、校章の意味やまちの歴史等をとらえ、そのことを発信するために必要な取り組みについて、見通しをもつ。 お寺の住職の方やバラの専門的な知識をもつ方、地域の方々さんから話を聞き、集めた情報を「折本の歴史」や「バラについて」、「未来に向けての取り組み」等の視点で分類し整理する。 集めた情報をもとに、実際にバラを栽培していくなかで、成長の仕方に応じて様々な方法を試し、その良さを捉える。 収集した情報をもとに、見た人が興味をもつ情報は何かを考え、情報を取捨選択し、表現の方法を工夫しながら発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> バラを栽培する活動を通して、まちに住むの方々やお寺の住職の方、バラの専門的な知識をもつ方々と関わりながら、バラを通じて 70 周年のお祝いをするとともに、人と人とのつながりを大切にしようとする。 バラの栽培を成功させ、地域に広めるため、バラの専門的な知識をもつ方と積極的に関わったりインタビューを行ったりする。 折本の校章について分かったことや、昔のまちの様子などを多くの人に伝えられるように、友達と協力して取材や資料集めを繰り返し行い、より良い方法を追求しようとする。 折本小の校章や歴史について広めたりバラの輪を地域に広めたりすることで、まちの活性化に役立つことができた自分自身に気づき、地域の一員としてまちの活性化のために継続してできることを考え続けようとする。

2 単元展開

3-1 白バラ研究所

(全80時間 総合70 国語5 社会5)

1 校章のデザインになった野いばらは今でも地域に残っているのだろうか？

(理科 1時間 総合10時間 社会 2時間)

- 折本小学校の校章のデザインになった野いばらについて調べ、探しに行く。
- 校章の考案者が住んでいたお寺に行って野いばらについて話を聞く。

今の時期は花が咲いていないから、よく分からないな。校章のデザインを考えた方はお寺の住職だったらしいよ。その人に話を聞いてみると、校章について色々なことが分かったけど、野いばらは見かけなくなってしまったと言われた。折本のどこかにまだ残っていないかな。地域の方から教えてもらった情報をもとにもう一度探してみよう。

2 自分たちが見つけた棘のある植物は本物の野いばらなのかな？ (総合10時間 国語2時間)

- 自分たちが集めた資料と植物を見比べ、調べる。
- 見つけた場所の持ち主の方に会って話を聞く。
- ばらの専門家に会って本物の野いばらなのか確かめる。

学校の上の畑の近くで見つけた植物と、今までに集めた資料を見比べてみると、似ているところがあるね。これは野いばらかもしれないから、土地の持ち主の方に話を聞いてみよう。昔からここに生えていたことは分かったけど、野いばらかどうかは分からなかったね。バラの専門家の人に話を聞いてみよう。

3 学校にバラ園を作って、野いばらや「はまみらい」のことを知ってもらおう。

(総合16時間)

- 自然に生えている野いばらを学校で育てるための方法を調べる。
- 野いばらと「はまみらい」を植えて、誰にどんなことを伝えるか考える。

自分たちが見つけた植物が野いばらだということが分かったけど、どうやったら学校の花壇で育てることができるのかな。枝からバラを再生できることが分かったけど、枝を切ってもいいか、持ち主に許可をもらわなきゃね。挿し木の方法をバラの専門家の方に教えてもらおう。「野いばら」に込められた意味を、地域の方にもインタビューして、もう一度よく考えてみよう。「はまみらい」を届けてくれた方にもインタビューして、「はまみらい」に込められた思いを聞こう。学校のシンボルの野いばらと、横浜市のシンボルの「はまみらい」を育てて、学校にバラ園を作ろう。

4 地域に野いばらや「はまみらい」の意味を伝えて、バラの輪を広げよう。

(総合20時間 社会5時間)

- 野いばらや「はまみらい」に込められた思いの伝え方の方法を考える。
- OK フェスタでバラ園をどのように紹介するか考える。

自分たちはバラを通じて何を伝えたいのか、考えをまとめよう。その思いをどのようにして伝えたら、より多くの人に届けることができるかな。お世話になった人たちにバラを届けたいな。地域の人たちにもバラを届けて、70年前の折本の景色を取り戻そうよ。折本のまちにバラを増やそう。野いばらと「はまみらい」の挿し木を地域の方たちに配ろう。自分たちが見つけたバラや配ったバラの情報を地図にかいてバラマップを作ろう。まちの人たちにバラを好きになってもらえたらいいな。

3年1組 白バラ研究所



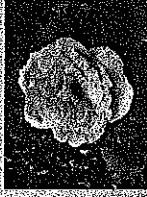
平成31年2月13日
第二次教育研究会
市生委員 総合的な学習の時間研究会
横浜市立折本小学校
白須 紗也香

児童の実態

・学校の70周年のお祝いにつながることがをしたい。

校舎のことを知りたい

70年前の地域のことを知りた



材(野いばら)について

- ・地域理解、地域愛につながる
- ・栽培活動など体験ができる
- ・地域の人のために活動できる
- ・探究心を引き出せる。

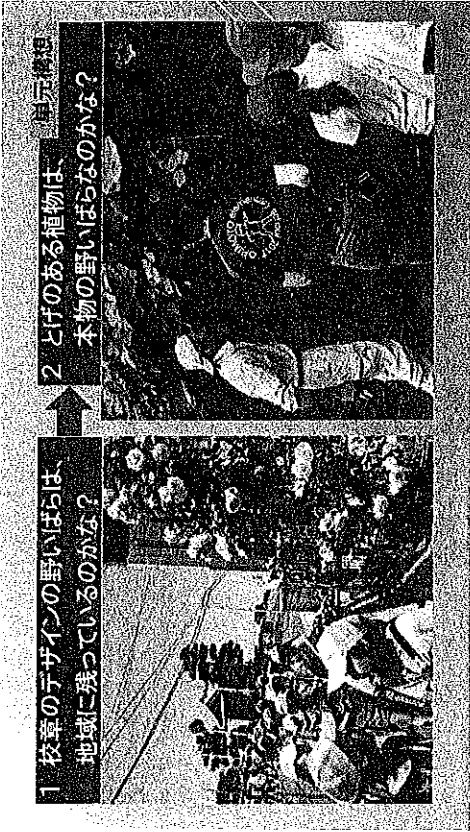
顕元目標

「野いばらがデザインされている折本の校章に込められた思いを、学校や地域の人にも知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、校内でバラを育てる活動を通して、自分たちの地域を支えてくださっている方々の思いを知るとともに、地域の一員として70年前に折本に咲いていた野いばらを再びまちに広め、当時の風景を取り戻し、まちをより豊かにする方法を考え行動しようとする。

単元で育てたい資質・能力

- 知識・技能・・・
- 思考力・判断力・表現力・・・
- 学びに向かう力・人間性等・・・

※資料参照



(1) 単元づくり

- A1 バラの魅力を発見しながらの探究
- A2 地域の人となりがりながらの探究

(2) 授業づくり

- ▶ B1 体験を生かした探究的な学習

(1) 単元づくり

A1 バラの魅力を発見しながらの探究

挿し木で栽培しながら発見した
野いばらの魅力とは・・・

A1

【地元づくり】
ハラの魅力を発信

60KJ

「あせう、どけがある。ジャングルの中？」

11月10日

4月 まだ見ぬ 野いぼらのイメージ

10月 人の気持ちを分かってくれる カラフルな野いぼら

10月

「やった！根が出たよ！」

【地元づくり】
ハラの魅力を発信

【地元づくり】
ハラの魅力を発信

11月7日

「こんなに根が伸びたよ！」

11月 野いぼらは、人の心をほっこりさせてくれる。

12月8日

「野いぼらは、地域の方にも守ってもらえるんだ。」

12月 昔は野いぼらのさびしさ、今は野いぼらのあたたかさ

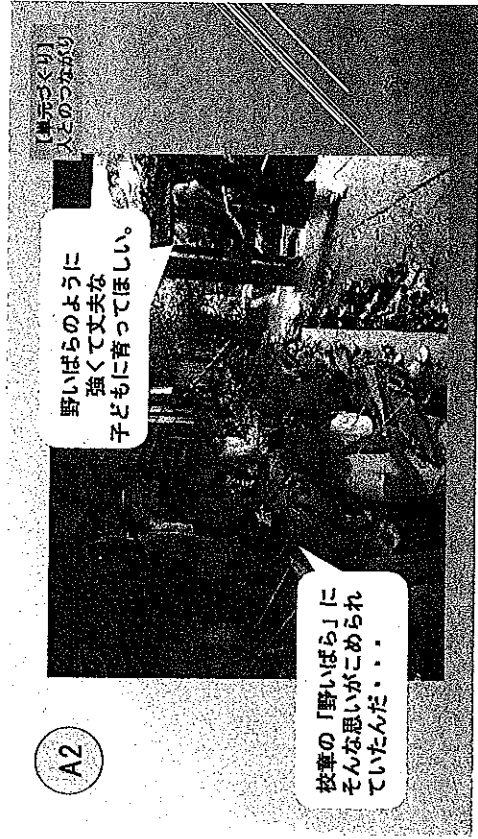
【地元づくり】
ハラの魅力を発信



(1) 単元づくり

A2 地域の人とつながりながらの探究

地域の人とかかわる過程で、野いぼらを見たい→育てたい→地域に取り戻したいへと変容していく子どもたち...



A2

牧草の「野いぼら」にそんな思いがこめられていたんだ...

野いぼらのように強く丈夫な子どもに育ってほしい。

(単元づくり) 人とのつながり



A2

香になると白い花が咲くよ。枝はもちかえっていいよ。

ありがとうございます。大切に育てます。

(単元づくり) 人とのつながり

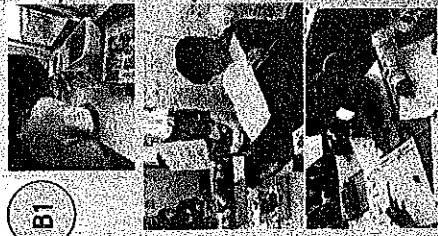


- ・お世話になった方や地域の方に野いばらを植えたい。
- ・人がこわした自然を取り戻したい。
- ・学校の友達に校章の野いばらを見せたい。
- ・校章に込められた思いを大切にしたい。

【3年1組の気持ち】
 週末で育てた野いばらを
 学校や地域に植えよう。
 どこに植えられるかな？



B1



【3年1組の気持ち】
 地域のどこに野いばらを植えられる
 のかな？
 【課題の設定】

- ・OKフェスタでのアンケート
- ・新井さんから教えていただいたこと
- ・現地調査
- ・もっている知識 【情報の収集】

条件を基に、野いばらを植える候補地
 を決めよう。 ※本時【整理・分析】

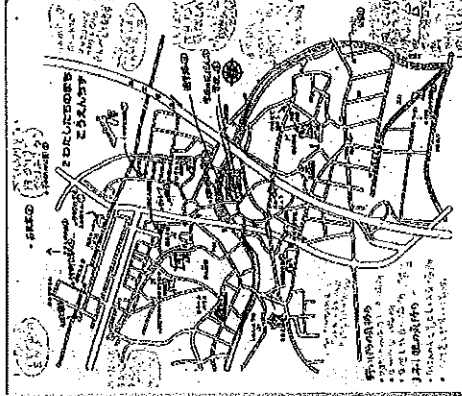
B1

【3年1組の気持ち】
 候補地を決める5つの条件

- 【野いばらの気持ち】
- ◆ 日当たりがよくて、水はけがいい所
- ◆ 虫が少ない
- ◆ 風通しがいい
- 【3年1組の気持ち】
- ◆ たくさんの人に観てもらえる所
- ◆ 世話しやすい所

【3年1組の気持ち】
 候補地を決める

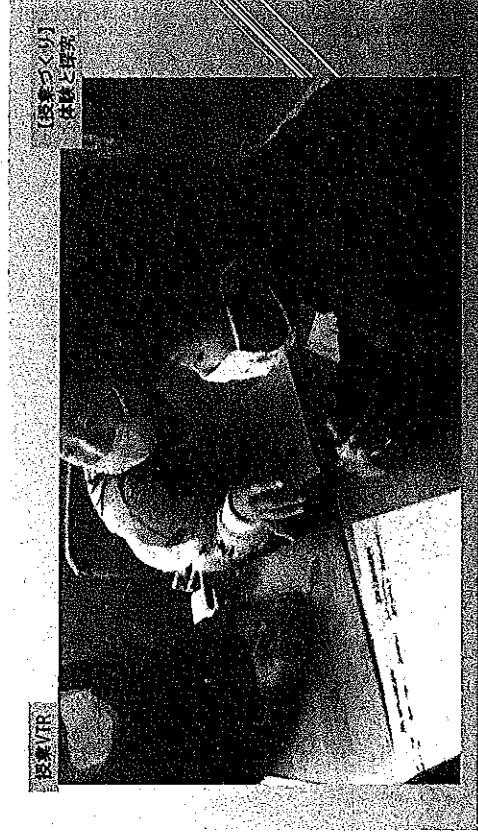
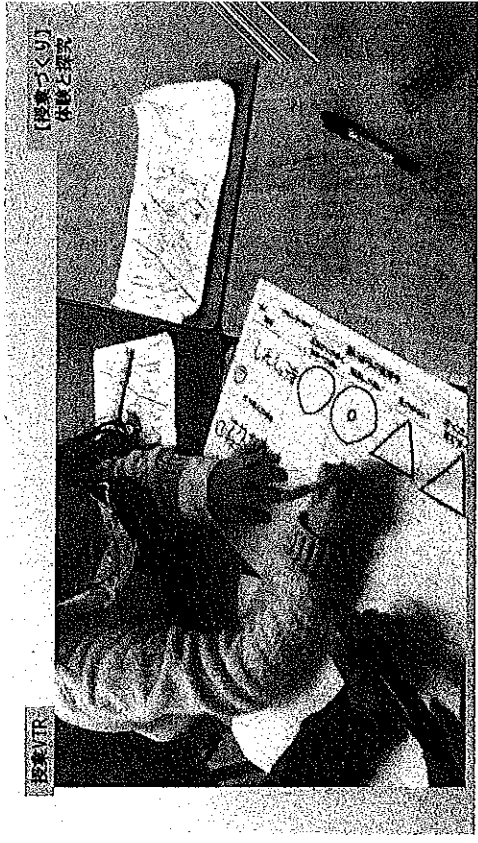
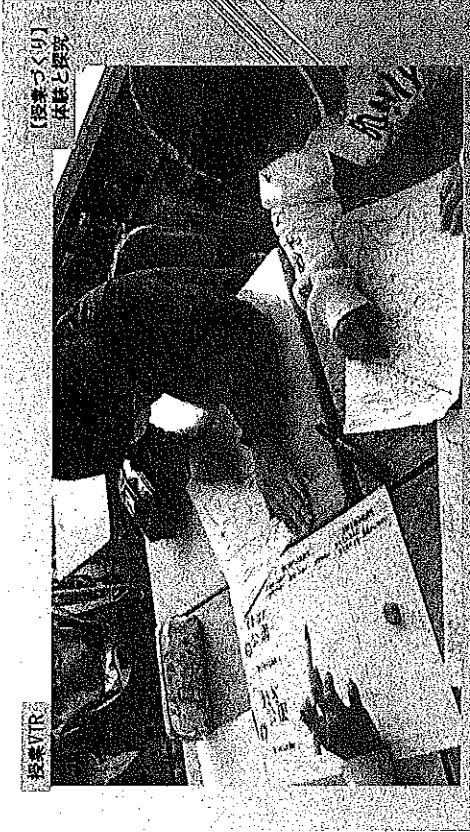
現地調査 メモ



【3年1組の気持ち】
 候補地を決める

ワークシート

番号	大田区にある場所	野いばりの歌の文字		3年1組の班		【授業づくり】 体験と探究
		日当たりの良く 水はけが良い	風通しが良い	広く明るい 見とろえる	広く 見とろえる	
⑭	つづじ 公園	○	○	○	○	○
	そらぎと組曲	近くにはやせ地 があるから 日当たりの水 はけが良い。	風通しがいい から。	葉は大きくて、 葉の裏から花が 咲いているから。 葉は大きくて、 葉の裏から花が 咲いているから。 葉は大きくて、 葉の裏から花が 咲いているから。	小さいながらも 花が咲いている から。	
⑮	甲子園 の菜園	○	○	△	△	◎
	そらぎと組曲	水は、日当た りがいいから、 おいしい野菜 がとれる。		水は、空の 水。	水は、空の 水。	水は、空の 水。



実践を振り返って ～子どもが身に付けた、生きて働く知識・技能～

押し木を成功させたいけど、どうやって？

どこに野いばらを植えればいいのか、学校のみんなや地域の人が聞いてみよう！

昔の折本のまことについて知りたいな！

地域の方々や専門家の方とかかわりながらハラを育ててきた子どもたち

自分のために
自分たちのために

学校や地域の方々のために
未来のまちのために

(授業づくり) 体験と探究

折本小に植えないっていうのは、どうか？

もっている知識・現地調査で得た知識を総動員していた。表にしたことで、思考が整理できた。一覧をもとに、全員で見直すことができた。

次時に向けた課題

△があっても、改善できるかも知れない。

△がなくても、「安全」の観点から不安なところもある。

これからの展開

野いばらは、地域の昔の景色を伝えてくれるもの

自分たちの夢をかなえてくれるもの

これからは、地域の昔の景色を伝えてくれるもの

これからは学校や地域で大切にしたいもの

人の心を
つなぐもの